

様式第3号（第2条関係）

震災時等における危険物 仮貯蔵 仮取扱い 実施計画書

年 月 日

住所 } 法人にあっては、その主たる事務所の所在地

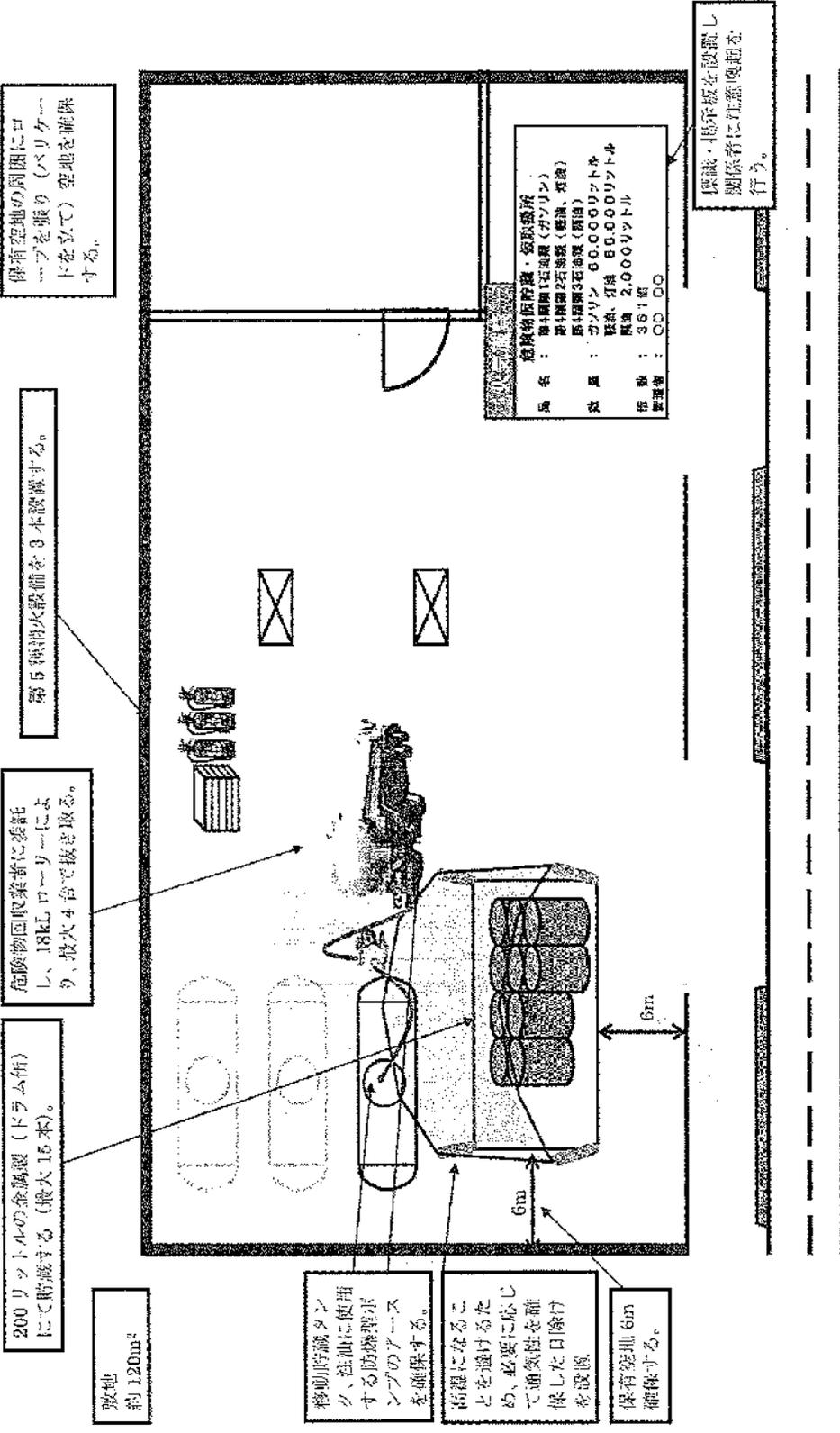
届出者 氏名 } 法人にあっては、その名称及び代表者の氏名

電話

仮貯蔵（仮取扱い）の目的		震災等により地下貯蔵タンク等が損傷した場合に、危険物の流出を最小限におさえることを目的とし、被災した地下貯蔵タンクから危険物回収業者が所有する防爆型ポンプを用いて移動タンク貯蔵所及びドラム缶への燃料の注油（抜き取り）を行う。				
仮貯蔵（仮取扱い）品名及び数量		第四類第1石油類（ガソリン） ○○リットル（OKL×1基） 第2石油類（軽油、灯油） ○○リットル（OKL×各1基） 第3石油類（廃油） ○○リットル（OKL×1基）				
場 所 請	地名地番					
	管理者氏名					
	敷地及び周囲の状況	別紙のとおり				
仮貯蔵及び仮取扱いに使用する建築物、工作物又は施設の状況	屋 内	敷地面積	m <sup>2</sup>	屋 外	敷地面積	m <sup>2</sup>
		建築面積	m <sup>2</sup>		空地	
		構造			その他	
危険物の貯蔵、容器、及び取扱い、管理の状況	1 危険物回収業者に委託し、OKLローリーにより最大○台で抜き取る。 2 200リットルの金属製容器（ドラム缶）にて最大○本を別に貯蔵する。 3 ドラム缶の貯蔵場所には保有空地进行を○m確保する。 4 高温になることを避けるため、通気性の良い日よけを貯蔵場所に設置する。 5 危険物の抜き取りには、業者が使用する防爆型ポンプを使用する。 6 標識・掲示板を設置し、関係者に次の事項について注意喚起を行う。（「危険物仮貯蔵、仮取扱い所」「品名・数量・倍数」「火気厳禁」） 6 転倒防止のため、集積したドラム缶をロープ等で支持物に固定する。 7 室内への出入り管理及び使用時以外の施錠管理を徹底し、いたずら・盗難を防止する。 8 作業前と作業後に点検を実施し、その結果を記録する。					
安 全 対 策	1 移動貯蔵タンク、注油に使用する防爆型ポンプのアースを確保する。 2 危険物の取扱いは、原則として危険物取扱者が行う。 3 危険物を取り扱う者は、静電安全靴を使用する。					
消 火 設 備	第5種消火設備 粉末消火器○本					
危険物取扱者	住所		氏名			
その他必要事項						

（注） 位置・構造・設備及び付近50m以内の公衆集会所、その他住宅等を記入した見取図を添付してください。

別図 仮貯蔵・仮取扱い実施計画書（地下貯蔵タンクからの燃料等の振取り、ドラム缶等による燃料等の貯蔵の安全対策の例）



200リットルの缶漏置（ドラム缶）にて貯蔵する（最大15本）。

危険物回収業者に委託し、18kLローリーにより、最大4台で振取り取る。

第5種消火設備を3本設置する。

敷地 約120m<sup>2</sup>

移動貯蔵タンク、注油に使用する防燃型ポンプの設置を確保する。

高圧になることを避けるため、必要に応じて通気性を確保した口除けを設ける。

保管容積6m<sup>3</sup>確保する。

危険物貯蔵・取扱場所	
品名	第4類第2石油類（ガソリン） 第4類第2石油類（軽油、灯油）
数量	ガソリン 60,000リットル 軽油、灯油 60,000リットル
総容量	120,000リットル
管理者	361号 00 00

保護・取扱いを厳重に行う。  
関係者には注意喚起を行う。